

令和元年度

自己点検・評価書  
(学校評価報告書)

附属天王寺中学校

## 1 附属天王寺中学校の現況

### (1) 学校名

大阪教育大学附属天王寺中学校

### (2) 所在地

大阪府大阪市天王寺区南河堀町4-88

### (3) 学級数・収容定員

12学級(1学年4学級) 収容定員448人(1学級:1, 2年 36人, 3年 40人)

### (4) 幼児・児童・生徒数

448人(男子人・女子人)

### (5) 教職員数

校長(併任) 1人, 副校長 1人, 主幹教諭 1人, 教諭 19人(うち, 臨時的雇用3人, ),  
非常勤講師 8人  
事務職員 3人(専任1人, 事務補佐員2人, 臨時用務員(用務員)1人)

## 2 附属天王寺中学校の特徴

質実剛健の校風のもと、生徒一人ひとりがお互いの多様性を尊重し合う中で、主体的に協同的な学びを展開していくことを重視し、将来の市民社会をリードしていくための“生きる力”の育成をめざしている。  
天王寺型中高連絡進学に基づく6年一貫教育の研究と実践を続けている。

## 3 附属天王寺中学校の役割

- (1) 大阪教育大学と一体となり、教育の理論と実践に関する研究を行うこと。
- (2) 教育に関する理論を実践し、授業や研究会で実証すること。
- (3) 大阪教育大学の教育実習機関として、効果的な実習活動を行うこと。
- (4) 大阪教育大学が行う現職教員の再教育の一端を担うこと。

## 4 附属天王寺中学校の学校教育目標

- ・ 正義を愛し、真理を追究する旺盛な向学心を持ち、透徹した判断力を養う。
- ・ 強固な意志を持ち、頑健な心身を育て、自主的・積極的な実践力を身につける。
- ・ 他人を愛し、自然の恵みに心寄せる豊かな感性を育てる。
- ・ 社会の一員となるための、責任感・遵法・奉仕・協調の精神を養う。

## 5 附属天王寺中学校の学校教育計画

1. 生徒の学力と、「生きる力」を育てる活動を、各教科・分掌で工夫し、実践する。特に、自治会やホームルーム等の集団における生徒の自主性と主体性に基づく諸活動をする。
2. 生徒の活動を支えるための、教育環境を整備・充実させるとともに、生徒の将来に向けた進路選択と実現に向けた取り組みを行う。
3. 学校独自の取り組みを通してカリキュラム全体の充実を図り、教育研究・教育実習・生徒指導の各領域における成果を発信する。

6 附属天王寺中学校の令和元年度 重点目標(評価項目), 具体的な取組内容(評価指標)・評価結果

評価の基準

自己評価		学校関係者評価	
A	高いレベルで達成できた	A	とても適切である
B	達成できた	B	おおむね適切である
C	一部達成できなかった	C	あまり適切でない
D	ほとんど達成できなかった	D	適切でない
		E	判定できない

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>正義を愛し, 真理を追究する旺盛な向学心を持ち, 透徹した判断力を養う。</li> <li>強固な意志を持ち, 頑健な心身を育て, 自主的・積極的な実践力を身につける。</li> <li>他人を愛し, 自然の恵みに心寄せる豊かな感性を育てる。</li> <li>社会の一員となるための, 責任感・遵法・奉仕・協調の精神を養う。</li> </ul>
学校教育計画	1. 生徒の学力と, 「生きる力」を育てる活動を, 各教科・分掌で工夫し, 実践する。特に, 自治会やホームルーム等の集団における生徒の自主性と主体性に基づく諸活動を活用する。

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
(1) ・生徒の学力向上と, 自立的な学習・生活習慣の確立を進める。 ・互いの個性と能力を尊重する態度を育成し, 個々の力量を十分に発揮させる。	学習環境の中高間の調整を円滑にする。(教務部)	時間割や使用教室調整など教務事務レベルでの情報交換は円滑にできている。	中高の教務の枠組みにおいて, 共同できることがらを見つめる。	B	工事などで使えない教室がある中でよくできていた。	B	特記事項なし
	中学の自由研究と高校の課題探求学習の情報共有を図る。(教務部)	中学の自由研究では, 第71期生から3年間で一つのテーマに取り組むシステムを行っており。その優秀者の発表を高校のSSH生徒発表会において行うのが通例となっている。	自由研究と課題探究の方法論や生徒の実績の情報交換を緊密にする。	B	行事の活動時間や練習時間をもっと取ってもよいと思う。音楽会の中止もあつてかあまり活動していないように思う。	B	特記事項なし

<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の学力向上と、自主的な学習・生活習慣の確立を進める。</li> <li>・互いの個性と能力を尊重する態度を育成し、個々の力量を十分に発揮させる。</li> </ul>	<p>○学芸会、音楽会などの行事を通して生徒の主体的で自主的な活動場面を保障する。生徒会活動のあらゆる場面で、生徒が達成感を得られ、自己肯定感の向上につながるような企画を進める。(生指部)</p>	<p>○体育大会の応援の活性化や生徒による主体的な企画の検討など、既存の活動に囚われない取組を生徒と模索した。また、学芸会や音楽会では生徒が主体的に活動・活躍できるような環境作りに努める。</p>	<p>○校舎の大規模改修に伴い、学芸会や音楽会において活動場所を確保するのが困難であった。今後は消耗していく備品の修繕や新規購入などを計画的・組織的に行っていくよう生指部でリードすることを検討する。</p>	B	特記事項なし	B	特記事項なし
	<p>”○全教員が充実した生徒会活動(生徒議会、委員会、部活動等)に繋がる指導ができるよう、組織的な支援体制を確立していく。</p> <p>○生徒と教員の相互理解や連携を目的として、全生徒対象の学校生活アンケートを実施する。(生指部)</p>	<p>”○生徒会役員会や委員会指導において、方針や総括の事前確認を行い、生指部で組織的に介入するシステムに変更した。</p> <p>○学校生活アンケートの実施回数を増やすとともに、WEB回答を利用し、時間の確保と業務の効率化を図った。”</p>	<p>”○生徒会活動に対する認識の差異を埋めていく必要がある。生徒議会の意義や選挙の重要性などを生徒・教員双方に浸透させていく。</p> <p>○学年単位で生徒指導をすることにより事案が共有しにくい現状がある。より「学校」としての対応が必要である。</p>	B	特記事項なし	B	特記事項なし
	<p>中高の教育環境が、自律的な学習・生活習慣の確率が出るように、全体を整備する。(庶務部)</p>	<p>中高の教育環境が、自律的な学習・生活習慣の確率が出るように、設備全体を整備しようと行動した。しかし、2学期から南館・東館の内装工事に伴い、関係教科の設備等が、大きく廃棄された。古い備品は廃棄されても当然であるが、新しいものと更新されるといふ計画は、現状ではない。</p>	<p>南館・東館の内装工事に伴い、関係教科の設備等が、大きく廃棄され、新しいものと更新されるといふ計画は、現状ではない。そのため、次年度の工事終了後に、中高の生徒の教育環境に影響を与える設備・備品から、順次更新をしていく必要がある。</p>	C	限られた予算の範囲でしっかり行っていただいたと思います。	C	特記事項なし

<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の学力向上と、自立的な学習・生活習慣の確立を進める。</li> <li>互いの個性と能力を尊重する態度を育成し、個々の力量を十分に発揮させる。</li> </ul>	<p>中高の教育環境が、自立的な学習・生活習慣の確率が出るように、全体を整備するために、日常的にチェックを行い、壊れていく場所は速やかに修理するように動く。 (庶務部)</p>	<p>中高の教育環境が、自立的な学習・生活習慣の確率が出るように、全体を整備するために、健人部のチェックを中心にを行った。校務員の方をお願いしたところもあるが、庶務部が速やかに修理した場所もあった。</p>	<p>健人部が中心となったチェックの結果を基に、校務員の方をお願いして、速やかに修理していただいたところも多くあった。しかし上記の工事の影響で、自ら修理するには、工作機械などが使えないなど、決して満足が行く状況ではなかった。</p>	C	特記事項なし	B	<p>工事が終了すれば、これまでと同様の対応に戻るだろう。</p>
	<p>課題や問題の発見・提起を主体的に行い、それを出発点として対話的な学習を進めていくための方法と内容を、学校組織として学び、研究成果としてまとめる。(研究部)</p>	<p>「深い学び」と「評価」についての理論を理解し、教科の特質も勘案してその実現に向けた学習を進めてきた。一方、学校全体としての「共通の枠組」については、実証的に考察していく側面が弱かった。</p>	<p>学校の組織力をベースに研究を深めていくためにも、「共通の土俵」づくりは必要不可欠であり、今後も継続する必要があるが、より具体的・実践的な「土俵」を協働で創り、実践を通じて検証していく必要がある。</p>	B	特記事項なし	B	特記事項なし
	<p>思考力、表現力、探求力、想像力をつけるための、様々なことばの力を用いた活動を行う。(国語科)</p>	<p>目標で記した力の中でも、特に、思考力、探求力を養う授業に取り組んだ。具体的には、教育研究会において、中学校の授業でディベートを行い、これらの力が包括的につくような授業を行った。</p>	<p>中学校でのディベートの取り組みをふまえて、さらに論理的思考力を高めるような高校の授業づくりをしていく必要がある。</p>	B	特記事項なし	B	特記事項なし
	<p>中高と通じて目指す到達目標を設定し、その目標達成のために主体的・対話的な学びを取り入れた5領域を統合的に扱う言語活動を実践する。 (英語科)</p>	<p>各校種、学年での教科における生徒のあるべき姿から、到達目標の設定、さらにはその目標達成のための授業における手立てについて、現在協議を続けているところである。</p>	<p>新年度スタートの段階で、小中高一貫した到達目標、評価規準が決定できるよう、引き続き協議を進めていきたい。</p>	B	特記事項なし	B	特記事項なし

(1) ・生徒の学力向上と、自立的な学習・生活習慣の確立を進める。  ・互いの個性と能力を尊重する態度を育成し、個々の力量を十分に発揮させる	課題解決的な学習過程で授業を進める中で自主・自律的な行動能力を高める。 (保健体育科)	もともと積極的に活動する生徒が多く、生徒主体で自主的な活動を多く取り入れることができた。特の一つの競技にとらわれずどの種目でもほとんどの生徒が積極的に運動に参加することが出来ていた。	がんばりすぎてケガをするといった状況もあり、セルフコントロールの必要性も生徒に考えさせていかなければならないと感じた。	A	特記事項なし	B	特記事項なし
	単なる知識獲得だけではなく、ものづくりなどの作品製作を通じて、自律的な生活に役立つ知識を獲得させるように指導する。(技術家庭科)	知識獲得だけではなく、ものづくりなどの作品製作を通じて、自律的な生活に役立つ知識を獲得させるように指導できた。ただし技術分野では、内装工事の影響で2学期の途中から技術室が使用できなかった影響で、例年の藩部程度しか作業できていない。	家庭分野は、本年度の指導をより充実した形で指導計画を作成し、実行して行く必要がある。一方技術分野では、本園度実施できなかった実習を実施すると同時に、次年度の計画分も同時に実施するため、時間を短縮して実施することが必要である。	B	特記事項なし	B	特記事項なし
	議論や発表の機会を授業の中で創出するとともに、意見を発信する能力の向上と、思考の質的変容を促すための、中高6年間の発達段階に応じた目標や評価規準の作成に向けた議論を教科として行っていく。(社会科)	意見を発信する能力の向上について、教科内で議論することができた。しかし、中高6年間の発達段階に応じた目標設定までできず、中高それぞれの目標設定に留まってしまった。	今後、引き続き中高6年間の発達段階に応じた目標や評価規準の作成に向けて、議論を深めていきたい。	C	公民の授業では、班活動の中で、1つのテーマについてお互いの意見を議論する授業が多々あり、世の中の仕組みをより深く考えることができ、視野を広げることができました。達成できたと評価されるべきであると思いました。	C	特記事項なし
	・生徒実験を通して、個々の生徒の力を発揮させるとともに、互いの意見を交換することで協働的な力の育成を行う。(理科)	授業などにおける少人数の班での実験を通して互いの意見を交換させるなど協働的な力の育成を行えた。	新しい設備を受けて、行うだけでなくさらに質の高い取り組みを目指したい。	A	特記事項なし	A	特記事項なし

	定期的にノートを提出させたり、授業の初めに小テストを実施する。また、それらの内容によっては補習を実施する。	学期ごとにノートを提出させたり、高い頻度で小テストを実施し、成績が一定以下のものに対し補習を行うなど全体としてよく取り組めた。	小テストの効果を検証し、つまりいているものに対する手立てを考える。学習習慣の確立につながる仕組みを模索する。	A	特記事項なし	A	特記事項なし
--	---	---	--	---	--------	---	--------

6 附属天王寺中学校の令和元年度 重点目標(評価項目), 具体的な取組内容(評価指標)・評価結果

評価の基準

自己評価		学校関係者評価	
A	高いレベルで達成できた	A	とても適切である
B	達成できた	B	おおむね適切である
C	一部達成できなかった	C	あまり適切でない
D	ほとんど達成できなかった	D	適切でない
		E	判定できない

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>正義を愛し、真理を追究する旺盛な向学心をもち、透徹した判断力を養う。</li> <li>強固な意志を持ち、頑健な心身を育て、自主的・積極的な実践力を身につける。</li> <li>他人を愛し、自然の恵みに心寄せる豊かな感性を育てる。</li> <li>社会の一員となるための、責任感・遵法・奉仕・協調の精神を養う。</li> </ul>
学校教育計画	2. 生徒の活動を支えるための、教育環境を整備・充実させるとともに、生徒の将来に向けた進路選択と実現に向けた取り組みを行う。

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
(1) 将来の目標を見据えた 進路意識を高めさせ、 その実現に向けた支援 を行う。”	限られた予算を有効に活用 するために、中高の先生方の 要望を把握し、適切に活用し 教育的効果のあがる機器を購 入する。	上記の工事があるため、不測の 事態に備えて、これまで実施して きた予算よりも備品購入にあたっ た。限られた予算であったが、中 高の先生方の要望を把握し、適切 に活用し教育的効果のあがる機器 を購入できた。	これまで、東館南館を使っ ている教科の備品は、収納場 所がないので、今回は旧極力 選定せず、それ以外の教科の 備品を購入した。購入した備 品は、要望された物で、適切 に活用し教育的効果のあがる 機器を購入できたと考える。	B	具体的にどのようなものを購 入したのか資料を付けていた だけとわかりやすいと思い ます。	B	次年度以降は、購入品の一覧を 付けて、評価を受ける
(2) 生徒と教員が協働して 健康と安全を意識した教 育環境の整備を図る。”	・理科の授業では多くの実験 実習が行われており、その際 の安全確保に関しては理科に 関わるの全ての教職員が常に 意識して取り組む。(理科)	・大きな事故もなく多くの実験実 習を行うことができた。 ・理科に関わる全ての教職員が安 全面での意識を高くもって工事の 計画を行えた。	・生徒にもさらに高い安全を 意識した実験を取り組ませる ことを目指していく。	A	特記事項なし	A	特記事項なし

6 附属天王寺中学校の令和元年度 重点目標(評価項目), 具体的な取組内容(評価指標)・評価結果

評価の基準

自己評価		学校関係者評価	
A	高いレベルで達成できた	A	とても適切である
B	達成できた	B	おおむね適切である
C	一部達成できなかった	C	あまり適切でない
D	ほとんど達成できなかった	D	適切でない
		E	判定できない

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>正義を愛し, 真理を追究する旺盛な向学心をもち, 透徹した判断力を養う。</li> <li>強固な意志を持ち, 頑健な心身を育て, 自主的・積極的な実践力を身につける。</li> <li>他人を愛し, 自然の恵みに心寄せる豊かな感性を育てる。</li> <li>社会の一員となるための, 責任感・遵法・奉仕・協調の精神を養う。</li> </ul>
学校教育計画	3. 学校独自の取り組みを通してカリキュラム全体の充実を図り, 教育研究・教育実習・生徒指導の各領域における成果を発信する。

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
(1) 現代的な学力観に対応した教科指導法の工夫と, カリキュラム全体の改善を図る。	本年度は、「主体的・対話的で深い学び」と「評価」との一体化に着眼して, 研究推進日や教科会・公開授業・小中高研究会等での研究に取り組む。(高)定期考査の変更に伴う効果と課題について検討する。(研究部)	「主体的・対話的で深い学び」については, 授業実践を通して具体的な在り方を探り, 教育研究会や「ふだんの授業展覧会」で提示することができた。評価については, 各教科で様々な取組が生まれている。(高)定期考査の変更に伴う様々な評価方法の効果の検証を継続している。	研究推進日をはじめ, 定期的に各教科や全体場で議論して, 「中高一貫・中高連携」について共通理解を深めていく必要がある。こうした共通基盤の上に, 各教科の独自性を打ち立てていくことが, 今後も重視していきたい。	A	重点目標に現代的な学力観に対応した, とありますが, 科目によってはばらつきがあるように思います。主体的・対話的, といった面では全ての科目で目標をクリア出来ていると思います。	B	ばらつきを多様性と認識してもらえるような, 達成度の説明が必要

(1) 現代的な学力観に対応した教科指導法の工夫と、カリキュラム全体の改善を図る。	社会科における「見方・考え方」「思考・判断」を評価する多様な方法について、大学教員と継続的に連携して検討を進め、その成果を研究会等で発信する。(社会科)	教科として議論してきたことを研究会で発信することができた。また、研究協議を通じてより広汎な議論をすることができた。	今後、さらに大学教授との連携を密にし、多様な指導を受けたい。	A	特記事項なし	B	特記事項なし
	”・科会や小中高研究部会において密に情報交換を行い実践していく。 ・自由研究、SSHの活動を教科として積極的にサポートする。(理科)	”・1年を通して情報交換を密に行ってきたこと生徒の学びの深まりを実践できた。 ・自由研究、SSHの活動を教科として担当生徒を多く持つなどして積極的にサポートした。	・教科としての情報交換をさらに密にしていくことで、生徒の学びを支援していく。	A	特記事項なし	B	特記事項なし
	中高で情報共有、連携することで、筆記テストだけに依らない「教育の三本柱」に沿った多角的、多面的な評価方法を模索する。(英語科)	今年度は時間割の関係上、中高合同での科会は研究推進日や小中高研究部会など、限られた中での実施となり、メールでの情報共有などできる最善の方法で連携方法を模索したが目標達成には至らなかった。	来年度は中高で同一のテーマを共有することで、より中高の連携を高めていきたい。そのために、他校種、学年との教員交流などの取り組みを進め、合同での科会を密に取っていく必要がある。	C	Cと評価されているが、時間的な問題で達成できなかった点について、良く把握されており、それについて広域にしかも具体的に評価されているので、とても良い振り返りができていると思います。	C	特記事項なし
	小中高研究部会での教育実践報告や研究推進日を活用した教育研究を充実させる。(数学科)	研究授業は面白いものを提案できた。共通の枠組みを共有し中高の理解を深めた。	授業を互いに見合うことはもっとできたのではないかと。日頃の授業に結びつくような小中高の連携のあり方を考える。	B	特記事項なし	A	特記事項なし

<p>(2) 社会の国際化や多様化に対応する力の育成に向けた取り組みを進める。</p>	<p>新学習指導要領における5領域をバランスよく育成し、外国語コミュニケーションについての見方・考え方を働かせる機会を増やす授業方法を模索する。</p>	<p>教科書で読んだ内容をベースとして口頭での意見交流やスピーチ、プレゼンテーション、英作文につなげたり、また独自の副教材を取り入れることで、様々なアプローチから5領域を統合した授業方法を実践することができた。</p>	<p>今後も各教員の研究会参加や教員間の情報共有、授業見学等を通して、自己研鑽を深めていきたい。</p>	<p>A</p>	<p>特記事項なし</p>	<p>B</p>	<p>特記事項なし</p>
<p>(3) 本校の実践を広く地域に発信するとともに、教育実践・研究活動での地域との連携を進める。</p>	<p>今後の教科指導のあり方や、研究のテーマ設定を再検討するために、中・高連携して、新指導要領に関する研究を進める。 (社会科)</p>	<p>新指導要領に関する研究や、今後の指導のあり方について、中・高それぞれにおいて深めることは出来た。</p>	<p>中高連携という意味では、教科として深めるまでには至っていない。今後は中高を超えた、教科として新指導要領についての研究を深めたい。</p>	<p>C</p>	<p>特記事項なし</p>	<p>A</p>	<p>特記事項なし</p>
	<p>研究会等に積極的に参加し、教科内でも授業研究を定期的に行う。</p>	<p>教科内では、研究推進日を利用し、中高の授業の内容や目的等を共有することができた。大学との研究交流会でも発表させて頂く予定である。</p>	<p>昨年度に比べて参加した研究会等は少なかった。次年度は時間を見つけ積極的に参加していきたい。</p>	<p>A</p>	<p>特記事項なし</p>	<p>B</p>	<p>特記事項なし</p>

